



Zikomo kwambiri!

ジ コ モ

ク ワ ン ビ リ



協力隊活動終了!最終報告を行いました。



Muli Bwanji(ムリブワンジ)? 無事に1年8か月の活動を終え、3月17日に JICA ザンビア事務所にて、最終報告を行いました。あっという間の20か月でした。

正直に言うと、教育の分野で活動を明確に数値化して成果を出すことはとても難しいですし、マンパワーとしてしか求められていないという無力感も感じています。しかし、先生方や子どもたちは最初から温かく迎えてくれて色々な経験をさせていただきました。その中でなぞりがきしかできなかった子どもが文字をかけるようになったり、グループワークが最初に比べてアクティブになったり、先生方が私が作った教材を使ってくれたり、私が用いた手法を取り入れてくれたりと、たとえ小さな変化だったとしても自分がここにいた証になったのかなと思います。

また、障害児・者支援の隊員としてイベント企画などいろいろな活動に取り組んだなど自負しています。その中で、少しでも障害に対する理解が深まったり、手話で挨拶ができるようになったりした人が一人でも増えているのであれば幸いです。

活動に関して、後悔がないと言い切れることはないと思っています。しかし帰国を迎えた今、ザンビアが第二のホームのように感じているということが、この地で奮闘できた証なのではないでしょうか。

ンゴニ族になってきた!



ンゴニ族のイチュワラセレモニーは、毎年2月に開催される伝統的な収穫祭です。東部州のチパタで行われ、ンゴニ族の王が主催します。

豊作への感謝と祖先の霊への敬意を表す重要な儀式で、足に着けた鈴を鳴らしながら踊るダンスが特徴的です。ンゴニ族はタンザニアやマラウイにもある部族で、ザンビア内外のンゴニ族が集結していました。

このお祭りの目玉はンゴニ族の王が牛の生き血を飲む儀式で、これは祖先への敬意を示す伝統的な行為です。

去年、東部出身の先生たちがお祭りの週にこの頭飾りをつけていて知ったこのお祭り。その時からずっと気になっていたお祭りでした。考えてみると、私のザンビアのサーネーム”Jere”はンゴニ族のもの。そして大好きなお世話になっている先生たちの多くは東部出身でした。きっとザンビアに来た時からンゴニ族に導かれていたのではないかと思います。

お祭り当日には同僚や友達にたまたま会えたり、手話通訳している人がいたので、deaf の人がいると思って話しかけたら、その方がまさかの同僚のお父さんだったりとお祭りに行って、知り合いにたまたま会うということが、ホームに感じた素敵なお祭りでした。最後に一緒に旅してきた同期にも感謝でいっぱいです。



協力隊としてここにいる意味。

私の配属先から歩いて 30 分の所にある農業大学で活動している同期がいるのですが、彼は自身の活動範囲を広げるべく近くにあったコミュニティースクールで農業の授業を始めました。話をするうちに、その学校で働いていた女性の若い先生の弟さんが聴覚障害者で、私の配属先の学校に通っているということが分かりました。そして家族は手話が分からないので、家ではジェスチャーでなんとかコミュニケーションを取っているそう。そこで手話を習ってみる？と提案したところ、習ってみたい!ということだったので、私もそのコミュニティースクールに通い彼女にザンビア手話を教えることになりました。

ある日彼女と授業をしていると、突然同期が男の子を連れてきました。自身の授業を終えた同期が配属先に戻る帰路で、たまたま弟と会ったそう。同期はその男の子が彼女の弟だと認識していなかったのも、教室に入って来るやいなや、同期も姉弟も、3人ともびっくりした様子でした。

何も知らない弟からしたら、見たことのある自分の学校の日本人の先生の友達についていったら、その日本人の先生が自分の姉に手話を教えている、という状況に遭遇したわけです。その瞬間の彼の嬉しそうな顔が印象的でした。

その後おうちに案内してもらい、おばあちゃんやおじいちゃんにも会えました。家族は本当に手話がわからないようで、恥ずかしいのか普段からなのか、学校ではやんちゃな彼がおとなしくしていました。

学校ではみんな共通の言語で話ができるけれど、家族とはそうじゃない…。もしかしたら、姉の手話習得は彼にとって希望の光なのかもしれない、そんな瞬間に携われているかもしれない、と思いました。

帰国間際、「お姉さんに挨拶がしたいから、今日家に行くね」と学校で弟に手話で伝えました。放課後、挨拶に家に行くと、お姉さんが「エリカが今日来るって弟が教えてくれた」と話してくれました。この小さな伝言リレーができたこと、すごく嬉しかったです。

色々な偶然が重なって実現したこの手話講座。たとえ小さなことだったとしても、彼ら家族のコミュニケーションが増えていく、協力隊としてここにいる意味ってこういうことなのかなと感じています。



Explore Zambia -Lunar Rainbow and Devil's Pool -

以前リヴィングストンにあるヴィクトリアの滝について紹介しましたが、今回はそのヴィクトリアの滝の違った魅力をご紹介します。

一つ目はルナレインボー。ルナレインボーは満月の月明りと滝の水しぶきで夜なのに虹が見られる現象のことです。満月の夜とその前後2日のみ見るチャンスがあります。毎月チャンスはありますが、雨期は天気が悪かったり、乾期は水量が少なすぎたりすると見ることはできません。月明りと虹がとても幻想的で吸い込まれるような感覚でした。ただ、水量が多い＝雨のようにびしょ濡れになるため、レインコート推奨です。ベストシーズンは6月だそうです。

2つ目はデビルズプール。デビルズプールは滝のすぐ端にできる天然のプールで、今にも滝から落ちそうなスリルを味わうことができる場所です。こちらは水量が少ないときにしか入ることができません。ガイドさんが写真を撮ってくれるのですが、彼らは命綱なしで、本当にギリギリのところに立って写真を撮ってくれます。彼らの身体能力の高さには毎回驚かされます。一生に一度、こんなスリリングな体験を試してみるのもいいかもしれませんね。

